

アフリカ子どもの本プロジェクト 2012年度活動報告

1、概況

本会も結成8年を迎え、「アフリカ子どもの本プロジェクトを知る会」から、昨年度は活動がスタートしました。運営会を毎月開催し、ケニアのドリームライブラリーの維持について知恵を出し合い、アフリカのその他の地域の要請に応じて本を送ったり、アフリカに関する子どもの本の新刊を検討したり、地道に前進してきました。本業の傍らでの活動のためゆっくりの歩みですが、今年もプロジェクトの目的にそった活動を着実に積んでいきたいと思っています。

2、会員数

2011年度末の会員数は88名でした。昨年度からの継続会員を含め、図書展、講演会などを通して今年度も賛同者が会員として加わり、2012年度末の会員数は94名です。

3、2012年度活動報告(2012.4-2013.3)

3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、アフリカへの支援、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 アフリカへの図書支援

1) ケニアの2つのドリームライブラリー

アフリカ子どもの本プロジェクトは、現地で活躍していた岸田袈裟さんが副会長を務める NPO「少年ケニアの友」と協力して、2004年に西ビヒガ県エンザロ村に子どものための図書館「エンザロ・ドリームライブラリー」を、2008年にカカメガの森近くのシャンダ小学校の敷地の中に「シャンダ・ドリームライブラリー」を開館し、運営してきました。当初は、開館までの装備（備品、図書）については、当プロジェクトが担当し、開館後の運営は「少年ケニアの友」が行う、という役割分担になっていましたが、一昨年岸田袈裟さんが死去し、「少年ケニアの友」が活動を停止することになったため（現在は奨学生制度については活動を継続しているが、2016年3月には解散）、今後の運営費用（ライブラリアンのお給料、修理費など）の一切を、当プロジェクトでまかなわなくてはならなくなりました。

「少年ケニアの友」は、奨学生支援の活動については現地 NGO ドレスチコ（岸田さんのスタッフだったケニアの方が立ち上げた NGO です）に運営を委託しますが、図書館についてはこちらに任されたかたちになります。

現在この二つの図書館は、村の中、小学校の中の子どもたちばかりでなく、かなり遠くからやってくる利用者もあり、それぞれにライブラリアンを置いています。エンザロのライブラリアンをお願いしているピーターさんには、週5日半の勤務に対して月6000シル、シャンダのライブラリアンをお願いしているアイリーンさんには、週4日の勤務に対して月4000シルをお支払いしています。シャンダについても、近い将来、毎日開館したいという希望を持っています。

また、図書館ができた後は、地元の方たちでライブラリアンのお給料くらいはまかなうのが本来の姿だろうと岸田さんは考えておられましたが、この二つの図書館がある地域は、ケニアの中でも貧しさの際だつ地域なので、実際にそれを要求するのは現時点では不可能だと思います。

そうすると、毎年図書館事業の運営に25万円程度が必要になります。現在、当プロジェクトの会費収入

は約 12 万円。とても足りないので、現在 1000 円の年会費を今後は少なくとも 2000 円に値上げする必要が出て来ます。

ただお金を払うだけではなく、地元のドレスチョコと相談しながら、最善の方法を模索していきたいと思えます。

2) アフリカへのその他の活動

9 月 10 日に、ルワンダ、ケニア、ナイジェリアの 3 カ所に児童書を送りました。

プロジェクトの資金から購入した本の他、日本ユニ・エージェンシーよりご寄贈いただいた本も送っています。

ご協力ありがとうございました。

<ルワンダ> (写真①)

会員の中地フキコさんからの依頼で NPO「ルワンダの教育を考える会」が支援しているルワンダのウムチョムイーザ学園（幼稚園・小学校）の図書室に『エンザロ村のかまど』の英語版や推薦リストに入っている絵本の原書など 20 冊を送りました。

「ルワンダの教育を考える会」は、虐殺を逃れて日本にやってきたルワンダ人のカンベンガ・マリールイズさんが中心となって活動している団体です。

<ケニア> (写真②)

前野裕子さん（在ケニア・マチャコス 海外青年協力隊隊員）からの依頼で、Machakos Girl's Rescue Center という児童保護施設に本を 30 冊送り、図書館リーフレットの PDF を配布してもらうようにしました。

このセンターでは約 70 名の女子が集団生活をしており、放課後の活動としてセンター内に図書室を開設し、読み聞かせをしたり、貸出をしたりできるようにしたいということでした。

スタッフや子どもたちの理解を得て、持続的に運営できるように前野さんがシステムを構築し、今後の様子を報告してもらうことになっています。

<ナイジェリア> (写真③)

ナイジェリアのアバテテ Abatete にあるイタリアのカソリック系女子高校 Dominican Sisters' High-school へ本の支援をしました。アバテテは会員パトリック・ヌワディケさんの生まれた村だそうです。

この学校では 10~18 歳の女の子 250 名が学び、先生は 36 名、シスターは 8 名在籍しています。できれば、小説や学習に役立つ本を送ってほしいということでしたので、会にあったブリタニカの子ども用百科事典 1 セット、ほかに絵本や読み物などをセットして送りました。

3-3 「アフリカ子どもの本プロジェクトを知る会」の開催 (写真④)

・開催の経緯

2011 年末の定例会にて、今年の反省・来年の抱負として、「プロジェクトの活動の全体像を会員間で共有できるような機会が作れないか」という意見があがり、2012 年 4 月の定例会で、「アフリカ子どもの本プロジェクトを知る会」の開催を決定しました。

・開催概要

名称：「アフリカ子どもの本プロジェクトを知る会」

日時：5 月 26 日（土）午後 14~16 時

場所：青山学院女子短期大学内教室

内容：第 1 部 プロジェクトの成り立ち、8 年間の活動報告、各部会の活動紹介など

第 2 部 アフリカンミュージックのライブや絵本の読み聞かせを交えた懇親会

上記にあわせ、懇親会ではアフリカ産のコーヒー・紅茶・ドライフルーツを提供し、貸出セットの展示、絵はがきセットや関連書籍の販売、新会員の募集も行いました。詳細は別紙として添付した『アフリカ子ど

もの本プロジェクトを知る会～8年の活動とアフリカの魅力を語る～』をご覧ください。

- ・実施報告
- 会員ボランティアスタッフ：21名（各報告発表者を含む）
- 来場者：約70名
- 新規入会者：8名

2部構成にし、アフリカンミュージックのライブなどお楽しみ要素を取り入れたことが好評で、「スタッフが楽しそうに仕事をしている様子がよかった」と、活動の雰囲気を感じ取っていただけたことや、「こんないろいろなことをしているとは知らなかった」という感想をいただき、実際にお話しすることの大切さを感じる機会となりました。

反省点としては、各報告者の発表内容を含め、もう少し事前の打ち合わせが必要だったという点と、展示セットの図書の多くは各出版社から寄贈いただいていることをお伝えしきれなかった点、また、新会員募集のみならず、選書会や定例会などへの参加協力を積極的にアピールできなかった点などがあがり、次回以降に反映させたいと思います。

約1ヶ月の準備期間でしたが、多くの方にご来場いただき、楽しい時間を持つことができました。来年2014年、活動10年という節目に、また多くの方に参加していただけるような会を開催できればと思っています。

3-4 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の選書

毎年、選書リストに入れる本が増えていくため、展示図書は常時100冊程度になるよう、見直しをすることとなりました。2011年秋よりすすめていた見直し作業が2012年4月に完成。

以降、新セットでの展示となります。HPにはこれまで通り、全点掲載し、展示会場にはおすすめ本全点を紹介する資料もおくようにします。

○2012年度の選書会は、以下のとおり開催しました。

- 4月 展示図書見直し作業 完成。
 - 6月 4点検討 『魔法の泉への道』（あすなる書房）、『なんにもないけどやってみたープラ子のアフリカボランティア日記』（岩波ジュニア新書）をおすすめ本に採用。
 - 7月 5点検討 『岩をたたくウサギ』（新日本出版社）を採用。
 - 9月 6点検討 『走れ！ マスワラ』（PHP研究所）、『動物大せっきん ヒョウ』（ほるぷ出版）を採用。
 - 10月 2点冊検討 『アンナのうちはいつもにぎやか』（徳間書店）を採用。
 - 2月 4点検討 『風をつかまえたウィリアム』（さ・え・ら書房）を採用。
- 以上21点を検討し、7点をおすすめの本としました。

○2013年度に向けて

- ・今後もアフリカ関連の本の刊行が増えそうなので、出来るだけ毎月選書会の時間を持ち、おすすめリストを充実させていきたいと思っています。
- ・選書会に出席できる人が限られて来るので、地方の会員をはじめ、多くの方に本を読んでもらい、意見をメール等で募り、選書に反映させたいと思います。ブログで毎月の選書本を書影付きで紹介し、本を手に取りやすくしていくことも考えています。
- ・アフリカへの本の送付は、事典やアルファベットの本、日本文化を紹介する本などを選定して購入し、『エンザロ村のかまど』（英語 or スワヒリ語）、おすすめリストに入っている絵本（英語）などを入れたコアセットをいくつか用意するなど、いろいろな要望に対応できるよう準備しておきたいと思っています。
- ・図書館司書の基本的な仕事や児童サービスについて、わかりやすく説明してあるテキスト本（英語）をさがし、スタッフ用に送付することも考えたいです。

3-5 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

今年度は申し込みが少なく、開催は1件だけでした。今後はPRの工夫が必要なようです。

立命館大学国際協力センター（京都）2012年11月1日～30日 立命館大学国際協力センター主催。（写真⑤）

来場者から「アフリカについて学ぶ良い機会になった」「アフリカの子どもたちの現実を目にすることができた」「本の解説がしっかりしていて、選書の参考になった」などの感想が寄せられたと、主催者からご報告をいただきました。

※次の出版社様から本年度追加の展示用図書をご寄贈いただきました。お礼申し上げます（50音順・敬称略）。

岩波書店、新日本出版社、鈴木出版、文藝春秋

3-6 支援グッズの製作・販売

活動資金にあてるため、前年度製作した会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセット、オリジナルTシャツ（沢田としき絵・白黒それぞれS・M・Lサイズ）に加え、『エンザロ村のかまど』（英語版・スワヒリ語版）を「アフリカ子どもの本プロジェクトを知る会」やホームページで販売しました。

2013年5月からは、沢田としき絵の一筆箋も販売しています。

3-7 ホームページの更新

「おすすめリスト」、展覧会の情報や報告など、ホームページを随時更新しました。

最新ニュースをお伝えするために、ホームページ内にブログも開設しました。

3-8 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに30回発信しました。

4、会計報告（2011.4.1～2012.3.31）

（省略）